

はくさん

人は人の中で

第71号 平成21年11月
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行
Tel 0558 (83) 0320

御会式の手作り料理は、絶品でした。早朝からお手伝いの女衆で大賑わい、井戸端会議も楽しく、料理、お給仕、片付けと夜遅くまで頑張られました。

前日は餅つきがあり、役員の奥さんや有志の方々のご出仕でした。餅つきの合間には、沢山に奉納された野菜の下ごしらえ。里芋をむく手間が大変なことを改めて思



いました。コンニャクは、材料の玉を摩り下ろし練って湯で上げる、手間と時間がかかります。

お金を出せば何でも手に入る時代になりましたが、こうして丹精込めた手料理はこの御会式でしか食べることが出来なくなつたと聞きます。尊いことです。「こうした料理づくりは初めて。良い経験をした」と元気に話す若い奥さんもありました。清餐では「やっぱり、こうした料理は良いよなあ」と、和やかに会話も弾みました。

万灯のだんだん近く寺の坂

御会式の献灯ささぐ両手(もろて)かな

伊東 修愚

*

すが若者です。その白龍会が今年も東京池上の本門寺、御会式万灯に参加しました。参加の当日、若い衆が寺に来て、手作りの纏をバスに乗せてから出発です。帰りには夜中の一時過ぎでしたが、万灯を本堂まで片付け、「ただいま帰りました」とお祖師さまにお辞儀するのでした。こうした若者を見て、「自分の纏」、「私たちのお会式」になつてきたことを思つたのです。

*

池上では嬉しいことが沢山ありました。東京の檀家さんや沼津からの知人が、共にご夫婦で駆けつけてくれました。太鼓のリズムにも直ぐに慣れ、「こりゃあ 楽しい」と、最後まで太鼓をたたきました。川崎に住む姪は友達を二人連れて合流。写真を担当したり、手拍子を打って華を添えたり、素直で気持ちの良い美しいお嬢さんたちでした。

またこの数ヶ月前、親戚のお葬儀で当山にお詣りされた方が、その葬式や寺の在りように感激され、この夜、わざわざ激励に来て下さったのです。そして行列に参加して下さいました。

白龍会の皆さんも大喜びし、励まされ、ありがたいことでした。

*

池上のお会式は盛大でした。境内への最後の石段を登り切ると、世界がパツと広がり、天空に昇つたようでした。みんなの気持ちが一つになり、周りのギャラリーも一

十月になると、白龍会の皆さんが太鼓の練習に集まつて来ます。夕食後、仕事の疲れもあるのに、よく頑張ります。そうした中で若者たちが纏の練習をし、また日を改めて纏を手作りしました。夜遅くまで一生懸命、さ

体。そして大堂のお祖師さまも、私たちが一体になってくださったのです。

*

こうした池上万灯、纏づくり、そして当山御会式の料理づくり、献灯献花の子供たち、皆さんのころごしや行いそのものが、実は「南無妙法蓮華経」であったと思えるのです。人は人の中で人となり、仏さまに近付くことができると感じる報恩、感謝の御会式でした。

ありがとうございました。

合掌

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

「お経によって体験する自分」

毎月第一日曜日の祈願会には、参加される方が次々と増えて、今では二十人余の方々が大きな声でお経を唱えています。参加者の中から「お経本の中の懺悔文を唱えていると、自然に自分を反省する心が出てくるから、不思議だね」、「本当だよね」という声が聞こえていました。私自身もこの祈願会の次に法事がなければ、本堂に走っていつて参加します。なぜか走る。そして大きな声でお経を唱える。そうしたいの

です。

*

振り返ってみれば、私は、普段からせかせかして、何かに追われるように仕事している、体も心もカチカチになっていて、その結果、周りの人にも緊張感を撒き散らしているのかもしれない。そこで本堂の椅子にゆったりと腰掛けて、大きな声でお経を唱えていると、何かしら暖かい光に包まれているようであり、そのカチカチになった心が柔らかく解きほぐされて自由に解放されていくようなのです。

皆さんが不思議というのもその通り。忙しい日常と違う「空」の時間を持つことで、自分の心と向き合って、ある時は固い考えから解放され、ある時は新しいエネルギーが湧き、ある時は癒される。まさに、そこにはお経によって「体験」する自分があります。

忙しくてお寺に来れない方も、仏壇の前で毎日少しずつでもお経を唱えましょう。そして自分や周りの家族が幸せで楽になれるよう、大きなお祈りをしましょう。

永代供養塔建立

長年望まれていた永代供養塔が、いよいよ出来上がります。平成九年、法住寺開山五百年を慶讃した



法住寺永代供養納骨堂 完成予想図

記念事業を検討しても、永代供養塔も候補の一つに上がりました。最終的に本堂建設に決まり、皆さんが力を結集して立派に本堂を建立したのでし

た。

永代供養塔が必要になってきましたので、昨年のお会式総会で、これから検討していくことで承認されました。

*

今年一月に、住職の叔父が亡くなり多額の志納金を奉納して頂きましたが、それは別に叔父の遺志ということで、この度多額の永代供養建立資金を叔母から頂きました。

そこで役員会の承認を得て、特別会計を組んで具体的に検討を重ねました。

場所

第二墓地の一番奥まった所。道路から入り易いように、取り付け道を作ります。

供養の内容

五十回忌、三十三回忌まで骨壺でご供養し、その後合祀（合同で納骨）して永代に渡りご回向する。また葬儀の後、直ぐに合祀もできる。

供養料、維持

今後、役員会で検討してもらいます。ご意見、要望などありましたら、お寄せ下さい。

今後の予定

周辺の大木等を整備してから建立します。護持会役員さんの奉仕作業や、建立場所を清浄に清める祓い経をあげ、完成後は入魂し納骨していきます。

トピックス

寺子屋道場

当地のお盆が終えた八月七、八日、多くの子供たちが元気に集まりました。



今年の体験

は、山の林でカブトムシ捕りです。林の中は事前に、山下一護持会長さんが下刈りして、歩き易いようにしてくれました。夏らしい

好天、林の中を通る風が何とも言えず爽やかです。日中でしたから、お目当てのカブトムシは少なかつたのですが、クヌギの根元を掘って探しました。

普段は入ることのない山の林を歩き回ると、さすが子供たち。太い蔦を見つけぶら下がりブランコ、ターザンごっことなりました。

山から帰ってからは夕食のカレーづくり、包丁を使って下ごしらえ、かまどでご飯炊き。「食法」といって食事の前の感謝の肝文を皆で唱え「いただきます」。夜は境内で花火、そして雑魚寝です。お経や大太鼓の練習、境内で鬼ごっここと二日間の楽しく貴重な体験でした。

この寺子屋道場の修了生が、先日のお祖母さんの法事でお経をしつかりと読み、大太鼓をたたいてくれ、とても嬉しい法事となりました。来年も八月七、八日の予定で行い

ますので、小学二年生からお子さんの参加をお待ちします。

境内整備作業

秋の作業は清水②の皆さんのご奉仕でした。広く周辺を草刈りして下さり、清浄な中で秋季彼岸を迎えることができました。

年末は、元村③のご奉仕です。

お詣り道路情報

◎東名沼津インターに直結して「東駿河湾環状道路」が、箱根の登り口（三島塚原IC）まで開通しました。この塚原ICから国道一号を少し下ると下田街道（一三六号）に出ます。将来は伊豆中央道につながります。

◎伊豆スカイラインの料金が、十一月より最大で二百円になります。



洋明さんのおはなし

今年も白龍会の勢いのある纏が宙を舞い、万灯講の体の奥まで響いてくる太鼓の音が法住寺、そして池上の御会式で奉納されました。毎年、万灯行列では人間の活力、

生きる力を体で感じる事が出来ます。

御会式は日頃の感謝の気持ちをも、日蓮聖人に捧げる日であります。皆さんもいつもお願い事ばかりではなく、まず感謝の気持ちを捧げることが大切なのです。「いつもありがとうございます」と。

*
お寺には、病気の方、御祈祷の相談の方、悩み・問題を持ったいろいろな方がいらっしゃいます。病になりそれをお題目に支えられ克服した方、また今も闘病されている方。子供が病気で「どうか助けてください」と一心に手を合わせる方。どなたも、仏さまに呼ばれてお寺にいらっしやるのだと思います。

*
ある赤ちゃんが大変な未熟児で産まれました。その後、命を落とすかもしれない峠、また感染症、髄膜炎等の様々な峠を乗り越え、今ではようやく三千グラム近くま

でになり、退院という光が見えて来たのです。

その間、ご両親や家族は、「どうかこの子を助けてください」と、一生懸命に祈願してきました。ご本尊さま、鬼子母神さんを、ただ信じるのではなく、「信じきつて」お題目をお唱えし、ただひたすらに赤ちゃんの無事を祈願いたしました。

*
この両親は若く、初めてお寺に来たときは「大丈夫かな？」と思うぐらいナヨッとしていました。それでも仏さまにすがる思いで、毎週お参りして、時に涙を流しながら一万遍を越す唱題行、ご祈祷を重ねたのです。すると顔つきが変わってきたことに気がつきました。真っ直ぐにご宝前を向き、仏さまを信じきり、一心にお題目を唱える顔に、何があるうとも決して揺るがないものを感じ取ることができるようになりました。

いのは、手なくして宝の山に入り、足なくして千里の道を歩こうとするに等しい」ともお示しくださっています。

ただお題目をお唱えするではなく、そこには信心をもってお唱えすることが大切なのです。この夫婦はまさに、お題目を信じ、信じきつてお詣りされています。

子供を未熟児で産み、様々な壁にぶつかり、どうしていいのか、何をしたいのか分からなかったと思います。何で自分たちがという思いや、この現実をどのように受け止めていいのか分からなくなる事もあったでしょう。

でも今は夫婦の心の中に仏さま、お題目の支えがあります。

また「子供の命があっただけでもありがたい。今は、お題目をお唱えし、お寺にお詣りすることが心の支えとなっています。お題目の意味は分かりませんが、一心にお唱えしていると、守られ、がんばっていきます。不安や心配事は尽きませんが、今を一生懸命に生きています。」と言います。

御志納金「八月〜十月」
百万円 元村 井本和男殿 尊父葬儀砌
十万円 元村 山下要殿 尊祖父五十回忌砌
十万円 元村 伊東はつ江殿 夫君三回忌砌
十万円 熱海市 佐藤守殿 先祖追善供養

永代供養塔特別志納
八百五十万円 沼津市 瓜島宏子殿
夫君「耀崑院法智日道居士」の遺志として

まさにこの夫婦は、まだ入院中の子供と一緒に、お題目に支えられながら一生懸命生きています。お題目により、二人は心を強くし、どんなことがあってもその苦難に立ち向かえる心を頂いたので感じました。はじめは子供を助けて欲しいと願ってお唱えしたお題目が、いつしかこの夫婦の支えになっていたのです。日蓮聖人は、「法蓮抄」のなかで『信じる心をもって御題目を唱えな

私はこの夫婦の気持ちが本当に嬉しく、お坊さんになって良かったと心から思いました。そしてこの夫婦とのご縁は、仏さまが私にくださったのだとも感じました。信じきることの大切さ、それによって支えられることのありがたさを、この夫婦から学ばせていただいています。